

ペット用品の備蓄をしましょう

避難所では、ペットのための備蓄がないこともあります。また、救援物資も道路状況などによってはしばらく到着しないことも十分考えられますので、準備しておきましょう。特に、薬を使用していたり、療法食が必要な場合は命に関わりますので、必ず備蓄をするようにしてください。

備蓄品は命に関わるものから優先順位をつけて準備しておくといいでしょう。チェックシートを用意したので活用してください。

ネットワークを作りましょう

普段から飼い主同士のネットワークを作っておくと、いざという時に助け合うことができます。例えば、一時的にペットを預かってもらったり、情報を共有したりできます。また、あらかじめ地域の行政窓口でペットとの同行避難について確認して、情報を共有しておくといいでしょう。

NETWORK



住まいの防災対策

災害に備え、ひとが安心して暮らせる準備をしておくことが、人の安全だけでなく一緒に住んでいるペットの安全にもつながります。例えば、住まいの耐震強度の確認や、家具の固定、生存空間の確保^{*}をすることなどが大切です。

※生存空間の確保…建物や家具が倒れた時に、人とペットが生き残れる隙間ができるよう、あらかじめ頑丈な家具を固定するなどして、安全な場所を作ること。

ペットの居場所は安全ですか？

- <地震に対して>
ブロック塀のそばや、ガラス窓の下など、建物が倒壊した際に、ペットが被害を受けない場所ですか？
- <水害に対して>
増水しても濡れない対策がとってありますか？

○ 備蓄品リスト



- 【優先順位 1】…命や健康に関わるもの
- 療法食、薬…災害時には手に入りにくくなります。普段からゆとりを持って備えておきましょう
 - フード、水…支援物資が届くまで、5日以上、できれば7日以上用意しておくいいでしょう
 - 予備の食器、リード（伸びないもの）
 - ガムテープ…ケージの補修など多用途に使用可能です

- 【優先順位 2】…飼い主や動物の情報
- 動物の写真…迷子になった時に、ポスターを作ったりするのに使えます。携帯電話に入れておくのもいいでしょう
 - 動物の飼育記録・飼育手帳…かかりつけの動物病院、食事の量や回数やワクチンの接種記録などを記録しておきます。一時預かりをお願いする際などに、スムーズに情報が伝えられます

- 【優先順位 3】…ペット用品
- ペットシート
 - 排泄物の処理用具
 - トイレ用品（猫の場合は使い慣れたトイレ砂）
 - タオル、ブラシ
 - おもちゃ
 - 洗濯ネット…猫の保定に使います



家族で防災会議を

災害が起こった時にどう行動するか、何を準備しておけばいいのか、問題点の対策を家族全員で話し合っておきましょう。

また、事前に自治体に避難する際の情報を確認しておき、情報を共有することも大切です。避難経路を確認し防災訓練をしておくと、いざという時にスムーズに行動ができます。

例えば

1. 家族の避難場所や集合場所を決める
2. 連絡方法を決める
3. 何をどれだけ、どこに備蓄するか決める
4. 子供だけ、ペットだけで留守番をしているときに、近所の方に様子を見てもらえるよう、普段からコミュニケーションをとる
etc...



災害が起きたら ペットといっしょに避難

必ず

ペットとの同行避難とは？

災害時にペットといっしょに避難することを「同行避難」と言います。同行避難はなぜ大切なのでしょうか。東日本大震災では、ペットといっしょに避難することが周知されていなかったため、ペットと離れ離れになってしまい、その結果多くの放浪するペットが生まれました。今でも飼い主の元に戻れないペットがたくさんいます。この原因には、避難する際に、ペットを家に置いてきてしまったり、途中で迷子になってしまったりしたことがあると言われています。

災害が発生したら、迷わず大切なペットと避難してください。



ペットといっしょに避難をしないと...

迷子になってしまった...
被災時の混乱状況では、迷子になってしまうことも...



家に戻れなくなってしまった...
道路の封鎖や避難勧告などで家に戻れなくなることもあります。



東日本大震災後、放浪する首輪がついた犬。同行避難をすれば多くは防げたと言われています。

一度はぐれてしまうと、再会は困難。必ずペットと避難しましょう。

一般財団法人 ペット災害対策推進協会とは

災害発生時にペットとその飼い主を守るために現地動物救護本部（自治体や地方獣医師会などで構成）の支援活動を行う団体です。都道府県や関係団体、獣医師と連携し、迅速で効果的な支援を行います。

また、災害時の救護活動支援だけでなく、災害に備えた予防対策活動もペット災害対策推進協会の重要な役割です。ペットとの同行避難の普及・啓発や、動物救護ボランティアや指導者の育成、全国各地に災害用備蓄基地の整備なども行います。



一般財団法人 ペット災害対策推進協会

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 6-28-14 杉本ビル 4階
TEL/FAX：03-6380-5717 平日の 10:00～17:00
(災害発生時には常時対応できる体制を確保)
<https://doubutsukyuen.org/>



災害が起きたら

ペットといっしょに避難

必ず

もしも災害が発生したら、必ずペットと避難するようにしてください。いっしょに避難をしないと、大切なペットと離れ離れになってしまうかもしれません。ペットとの同行避難で、ペットと安全に避難しましょう。

まずは人の身の安全を確保 ～人が無事だからペットの命を守れます～

自分の身の安全をまず確保しましょう。災害時にペットを守るためには、飼い主が無事であることが大切です。

突然の災害で、ペットもパニックになりいつもと違う行動をとることがあります。興奮しているペットに咬まれたりしないように気をつけてください。飼い主が動転しているとペットにも伝わります。落ち着いて、普段通りの言葉をかけるなど、ペットを落ち着かせるように努めてください。



ペットといっしょに避難場所へ

避難の指示があった時には、ペットを連れて避難します。倒壊した建物や切れた電線など、避難場所までの経路には危険箇所がたくさんあります。足元や頭上に気を配り、落ち着いて行動しましょう。自治体が公表しているハザードマップを活用するなどして、避難場所までの安全な経路を確認しておくといいでしょう。

普段と違う状況にペットも興奮していますから、リードはしっかりと持ち、ケージはしっかりと抱えて、ペットの安全にも気を配りましょう。

スムーズに避難所に入るには

日頃からどれだけ準備ができていかに、スムーズに避難所に入れるかが決まることもあります。ペットの受け入れが拒否される理由は、必要なワクチンを接種していなかったり、吠えてしまったり他の避難者から苦情が来たなど、普段からのしつけや準備

避難時のポイント

犬の場合

- リードをつけ、首輪が緩んでいないか確かめます
- 小型犬などはリードをつけた上で、キャリーバッグに入れるのもよいでしょう

猫の場合

- キャリーバッグやケージに入れます
- キャリーバッグ等の扉が開かないようにガムテープなどで固定しましょう

備でクリアできるものばかりです。災害発生に備え、自治体に「受け入れ体制はどうなっているか?」、「受け入れる条件はあるのか?」などを確認しておきましょう。

同行避難の流れ

災害発生!

身の安全を確保し、ペットを連れて避難所へ!

避難所

受け入れ可

受け入れ不可

トラブルや問題の解決

- アレルギーを持った人がいる
- ケージに慣れていない
- 予防接種を受けていない
- 人や動物に吠えてしまう
- etc,,,

動物救護本部による一時預かりの利用

ペット受入可能な避難所への移動

ペットとの同居ルールの取り決め

※ペットの受入条件や体制は地域により異なります。事前に自治体に確認しておくとい良いでしょう。

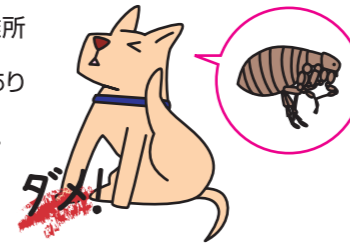
準備が大切!

スムーズな同行避難のために日頃から備えましょう。

ペットとの同行避難のための備えと言っても、特別なことはありません。日頃のしつけや健康管理、所有者明示などを適切におけばスムーズな避難が期待できます。

健康管理をしましょう

避難所では多くの方が共同生活を送ることになります。慣れない場所ではペットも体調を崩しがちです。普段から健康状態に注意し、ブラッシングで抜け毛をとるなどペットの体を清潔に保ち、予防接種やノミなどの外部寄生虫の駆除をしっかり行いましょう。狂犬病予防注射済票はつけていると、だれでも注射済みであることがわかります。避難所への入所を断られてしまうこともありますので、必ず付けておきましょう。



しつけはできていますか?

知らない人や他人のペットに吠えてしまうと、他の避難者からの苦情で入所が困難になることもあります。また、避難所ではケージでの生活になることが多いので、ケージに慣れていないと避難生活が困難になる場合もあるでしょう。



「待て」、「ハウス」などができるようになっていることも大切です。

所有者明示をしましょう

ペットの所有者明示は災害発生時に関わらず大切です。災害時にはペットが逃げてしまったりして、一度飼い主から離れてしまうと再会は難しいです。首輪に鑑札や狂犬病予防注射済票はもちろん、住所や電話番号を書いておいたり、マイクロチップを入れておくことで再会の可能性はぐんと高まります。

過去の災害では、室内飼いの犬や猫でも、災害時にパニックになって開いた扉から逃げてしまったり、倒壊した壁の隙間から外に出て行方不明になった事例が報告されています。首輪を常につけ、あわせてマイクロチップも入れておくとい良いでしょう。

健康管理としつけのポイント

犬の場合

- 「待て」「おすわり」「ふせ」などの基本的なしつけ
- ケージの中に入ることを嫌がらない
- 不必要に吠えない
- 人を怖がったり攻撃的にならない
- 決められた場所での排泄
- 狂犬病予防接種と各種ワクチン接種
- 犬フィラリア症など寄生虫の予防・駆除

猫の場合

- ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらない
- 人やほかの動物を怖がらない
- 猫用トイレでの排泄ができる
- 各種ワクチンの接種
- 寄生虫の予防・駆除



所有者明示の方法

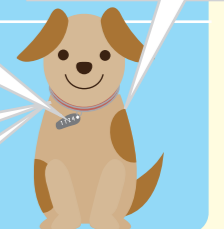
犬の場合

鑑札と狂犬病予防注射済票

連絡先を書いた迷子札

首輪

マイクロチップ

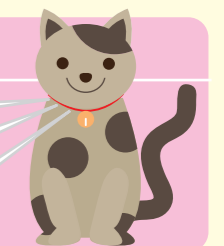


猫の場合

マイクロチップ

連絡先を書いた迷子札

首輪



※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務付けられています。